

## 栃木県及び周辺の地震活動（令和 8 年 1 月）

### 【地震活動概況】

今期間、県内で震度 3 以上を観測した地震はありませんでした（前月 2 回）。

期間内の県内の最大震度は 2 で、震度 1 以上を観測した地震は 7 回（前月 10 回）ありました。

### 【栃木県及び周辺の地震活動】

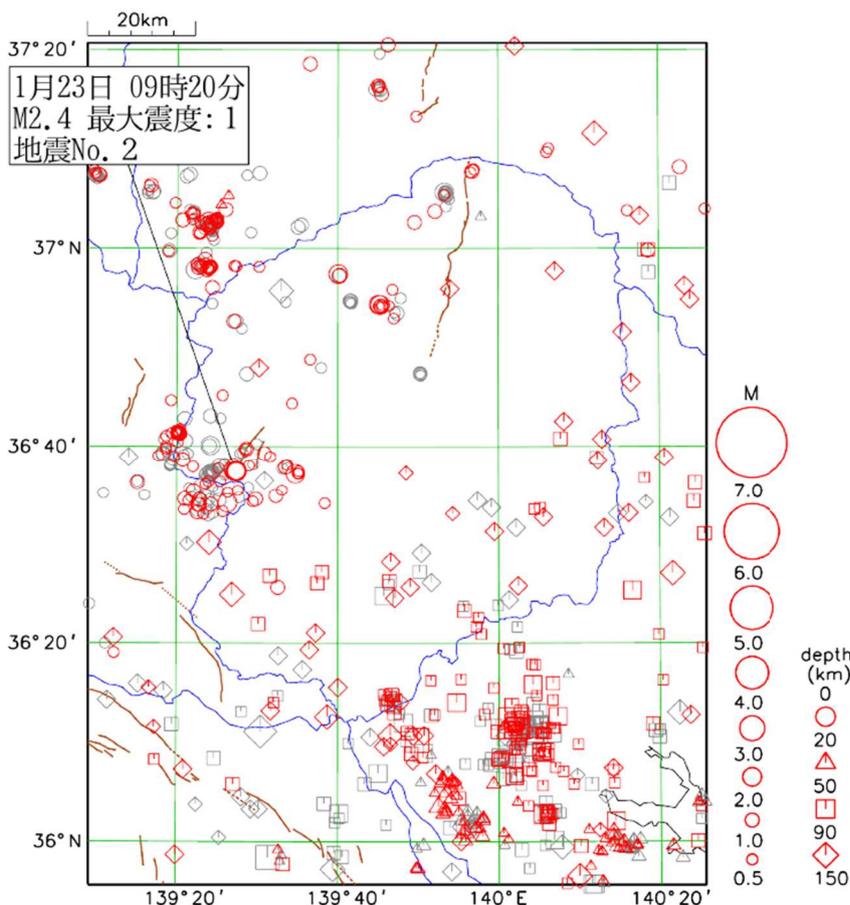


図 1 震央分布図（2025 年 12 月 1 日～2026 年 1 月 31 日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・図中の吹き出しを付けた地震は、県内震度観測点で震度 3 以上を観測した地震及び県内を震源とする震度 1 以上を観測した地震です。地震 No. は県内で震度 1 以上を観測した地震のリストに対応しています。
- ・M はマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』（国土地理院）を加工して作成した。

## 【1月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	1月9日	20時07分	千葉県東方沖	35° 26.1'	140° 26.6'	30	4.6	4	1
2	1月23日	9時20分	栃木県北部	36° 37.4'	139° 27.4'	5	2.4	1	1
3	1月24日	6時19分	茨城県北部	36° 38.0'	140° 37.3'	7	4.5	4	2
4	1月25日	11時46分	茨城県南部	36° 11.9'	140° 01.8'	52	4.0	3	2
5	1月25日	11時47分	茨城県南部	36° 11.6'	140° 02.1'	51	3.7	2	2
6	1月31日	3時47分	茨城県沖	36° 19.6'	140° 50.2'	42	4.0	3	1
7	1月31日	4時41分	茨城県南部	36° 10.2'	139° 49.8'	53	3.0	1	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

## 【震央分布図範囲内の地震】

### 1. 栃木県北部（地震No. 2）

23日9時20分に栃木県北部で発生した地震（深さ5km、M2.4）により、日光市足尾町中才で震度1を観測しました（図2）。



図2 23日9時20分 栃木県北部の地震 左図：地域震度 右図：地点震度

## 【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

## 【防災メモ】大規模災害時のキャッシュレス決済について

近年、買い物や交通、公共料金の支払いまで、キャッシュレス決済は私たちの生活に深く浸透しました。スマートフォンひとつで支払いが完結する手軽さは大きな魅力で、財布を持たずに外出する人も珍しくありません。平時においては、これほど便利な仕組みはないと言ってよいでしょう。

しかし、地震などの大規模災害が発生したとき、この「便利さ」は思わぬ弱点を見せます。停電や通信障害が起きると、QRコード決済のようにオンライン接続を前提とする仕組みは機能しにくくなります。スマートフォンの電池が切れれば、タッチ決済も使えません。店側の決済端末も、電源や回線が失われれば動作できなくなります。キャッシュレスは、電気や通信といったインフラに強く支えられている仕組みなのです。

では、現金があれば安心かと言えば、そうとも言い切れません。停電や混乱の中ではレジが使えず、会計

に時間がかかることもあります。さらに、店舗側で釣り銭や小銭の確保が難しくなれば、現金を持っていても思うように買い物ができない場面も考えられます。

一方で、すべてのキャッシュレス決済が使えなくなるわけではありません。交通系 IC カードやクレジットカードのタッチ決済は、店舗の状況によっては利用できる場合があります。持ち運び可能な決済端末をバックアップとして備える店舗もあり、災害時でも会計を継続できる環境づくりは少しずつ進められています。店舗側にとっても、釣り銭の確保や現金管理の負担を減らせる点は大きな利点です。

大切なのは、決済手段をひとつに絞らないことです。かつては現金かクレジットカード程度しか選択肢がありませんでしたが、今はスマートフォン決済や交通系 IC など、支払い方法が多様化しています。少額の現金を持ちつつ物理カード型の決済手段も携帯し、さらにスマートフォンのバッテリー対策をしておく、こうした複数の選択肢を持つことが、いざという時の安心につながります。

防災用品というと、水や食料、懐中電灯を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、けれども、日頃使っている支払い手段も、実は大切な備えのひとつです。お手持ちの現金やカード、普段の支払い方法を、この機会に一度確認してみましよう。

資料についての問い合わせ先 : 宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260